禁中并公家諸法度

9
7 ほ3
2032

166

禁中并公家諸法度

明治
號2032
卷

明治三十一年十月
安藤氏寄贈

食籠
食籠
食籠
言詰
言
講師
講師
枝
枝
講
講
講
段
段
段
段比盤銘帖
錺
錺
錺
木
錺入セラレシヤ否ヲ成ル
一枚
五六
壱枚
壱枚
壱枚
段比
段比干盤
岐陽石鼓
揚

松中孝之介源信治遺稿

門外
藏書
昭和二十年十月十日
東京都

禁中並公家中諸法度

一 天子諸藝能之事第一御學問也不學則不明古道而能政致太平者未之有也貞觀政要明文也

○ 寛平遺誡雖不窮經史可誦習群書治要云〻 ○ 和歌自光孝天皇未絶雖為詩語我國習俗也不可棄置云〻 ○ 所載撰歌

御書之事要候事

禁中并公家中諸法度

一 天子諸藝能之事第一御学問也不学則不明古道而能政致太平者未之有也貞觀政要明文也

○ 寛平遺誡雖不窮経史可誦習群書治要云〻 ○ 和歌自光孝天皇未絶雖為綺語我國習俗也不可棄置云〻 ○ 所載禁秘抄御習学専要候事

[illegible]

一 三公之下親王其故者右大臣不比等者舍人
親王之上殊舍人親王仲野親王贈太政大臣
穩積親王准右大臣是皆一品親王以後被贈
大臣時者三公之下可為勿論 欠○親王之次
前官之大臣三公在官之内者為親王之上辞
表之後者可為次座其次諸親王但儲君
各別前官大臣關白職再任之時者摂家
之内可為位次事

一清花之大臣辞表之後座位可為諸親王之次

座事

法花八　聘法皇　三條　西園寺　德大寺　今出川

久我　花山院　万里小路

摂家この人々に任ずべきか

如何　知るべきなり

一雖為摂家無其器用者不可被任三公摂関況

其外乎

摂家なりとも器用の者は摂政関白に任ずべきなり

公家八度ノ摂政ノ例なり摂政を勤むべき

法皇ノ人々ハ天子十六歳ノ時ノ摂政を勤むべ

一 [illegible]用之御人體雖被及老年三公摂關不可
有辞表但雖有辞表可再任事

一 養子者連綿相可被用同姓女縁其家督
相續古今一切無之事

一 武家之官位者可為公家當官之外事

一 改元者漢朝年号之内以吉例可相定但重而
於習禮相熟者可為本朝先規之作法歟

一 天子禮服大袖小袖裳御紋十二象 諸臣礼服各別
御袍麹塵青色帛生氣御袍或御引
直衣御小袖直衣等之事

○仙洞御袍赤色橡或月御衣大臣袍橡異
文小直衣親王袍橡小直衣公卿著禁色
雜袍雖殿上人大臣息或孫聽著禁色
雜袍貫首五位藏人六位藏人著禁色至
極鶉著麴塵袍是申下御服之儀也晴時
雖下鶉著之袍色四位以上橡五位縹地下
赤衣六位深緣七位淺緣八位深縹初位淺縹
袍之紋轡唐艸輪無家々以舊例著用
之任槐以後異文也直衣公卿禁色直衣初
或拜領家々任先規著用之殿上人直衣
羽林家之外不著之雖殿上人大臣息又
孫聽著禁色直衣布衣直垂隨所著用也
小袖公卿衣冠之時著綾殿上人不著綾練貫
羽林家三十六歳迄著之此外不著之紅梅十六
歳三月迄諸家著之此外平絹也冠十六未滿
透額惟子公卿從端午殿上人從四月酉賀

茂祭著用普通之図

十二章
月星辰山龍
華虫火宗彝
藻粉米黼黻
三公
龍山華虫火宗
彝
以上五衣付
色袴ナリ
藻粉米黼黻
以上四裳付
五色ノ糸ニテ縁ナリ
月卿ハ
華虫火宗彝
藻
以上五衣袴
粉米黼黻
以上三裳付

天子孔雀ハ御座の付たるなく人舳少舳ハ孔雀の上に置し御殿上ニ置
座の左右に御紫束ハ日月を出光部ニ置その外十二章殿を多之
日月ハ天子ハ左ニ月卿ハ右ニ例之御殿ハ孔雀の代ハ左右以下思召ハ孔雀ハ官位
孔雀ハ御座の代ハ左右の御殿ハ御紫束ハ官位
之ハ御座の代ハ左右の御殿ハ御紫束ハ官位
之ハ御座の代ハ左右の御殿ハ御紫束ハ官位
帛ハ白衣之　左右ハ天子の年ハ清涼殿ハ会ハ左之ハ右ハ
御門ハ亜衣ハ天子ハ左右ハ亜衣ハ
出亜衣ハ摂政之御所深御　御殿　清御　小亜衣
御所ハ摂政之　摂政ハ摂政ハ摂政ハ月卿ハ摂政
摂政ハ摂政ハ月卿ハ摂政ハ摂政ハ摂政ハ
摂政ハ摂政ハ摂政

一

諸家昇進之次第其家今守舊例可申上但学問有職歌道今勤学其外於積奉公勞者雖為超越可被成御推任御推叙下道真備雖從八位下依首尾智興言右大臣拜任尤規摸也螢雪之功不可棄捨事

諸家の人々官位の昇進の例わかるべきの事

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

親王宣下有間數也門跡之室之位者
可依其仁躰考先規法中之親王布右之
儀也近代及繁多無其謂摂家門跡親
王門跡之外門跡者可爲准門跡事

摂家の公達つぎ〻なりの中に親王門跡〻ハ
親王摂家三公の時ハ上にとゝまり分官のたゝに
なりぬ〻ハ中にとゝまり准〻〻親王の門跡を
とゝ〻摂家門跡をとゝまらしめ宮家門跡
のみの門跡親王の宮ハ世用ものゝ如く門跡
ハ世用〻の人〻なりて宮家を定め
法中の内〻親王宮ハ世用

一

僧正大正權門跡院家可守先例至平氏者器
用卓拔之仁希有雖任之可爲准僧正也但
國王大臣師範者各別事

大僧正准大納言正官正准中納言官
門跡院家に任ぜらるゝ法皇の門跡の中にて
わりなき僧〻門跡に任ぜらるゝ

今〻親王門跡つぎ〻の法人寺院三宮院
門跡の門跡摂家門跡也宮相院四滿院ハ
摂家に地位〻なり准門跡なり法皇門跡
なり御室ハ日本〻流也ハ無位〻なり准門跡
なり准門跡二十ヶ所ウトノ儀〻

一 門跡者僧都（大少正）法印任叙之事院家者僧都（大少正権）律師法印法眼任先例任叙勿論但平人者本寺推挙之上猶以相撰器用可申沙汰事

大僧都 正僧都 少僧都（何も僧官） 法印（任じ置殿門） 法眼（僧官） 法師（僧官） 法師（僧官）

院家門跡者者僧官法師法眼法印なり

一 紫衣之寺住持職先規希有之事也近年猥勅許之事自乱鶉次且汚官寺甚不可然於向後者撰其器用戒鶉相積有智者聞者入院之儀可有申沙汰事

世俗衣を忘れる寺住持職ハ出家ゟ寄ゟ付ゟ仕様

一上人号之事碩学之輩者為本寺撰正権
之者別於申上者可被成勅許但其仁
躰佛法修行及二十箇年者可為正年
席未満者可為権猥競望之儀於有
之者可被行流罪事

碩学中上人号之事諸寺諸山之輩者為本寺撰正権
之者別於申上者可被成勅許但其仁躰佛法修行
及二十箇年者可為正年席未満者可為権猥競望
之儀於有之者可被行流罪事

右可被相守此旨者也　二條関白殿也

慶長二十乙卯年七月　昭實在判
秀忠在判
家康御判

此十七箇條家康秀忠昭實先判之趣也萬

治四年正月十五日内裏火之上之節就令焼失
今度以副本如薫文写調之為後鑑如判形
者也

寛文四甲辰年六月三日　二條　光平在判
家綱御判

一　公家衆法式事

一　公家衆ハ門号ハ家ノ名字ニ官位ヲ付ル事
　　花者ハ宵ハ法度ニ準ス長ス
　　流儀ハ法儀ニ準ス定ル事

一　官位ハ当番ニ成ル日ハ家ノ風儀ニ成ル事
　　同役ハ同列ノ式日ニ参勤ス法ニ準ス事

一　夜会ハ毎月ニ不断ハ出仕ス細ハ法ニ準ス事

一　公家ハ私ニ少将ハ官位ハ官ノ法

[illegible]流罪因之不事

右條々御定所也慶長拾五年[illegible]

[illegible]武家諸法度[illegible]

慶長十八年六月十七日

[illegible]

一 諸中方[illegible]長崎[illegible]

[illegible]

一 法事[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 諸中方[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一　門番の事

一　女下男の事

一　御番の親兄弟方へ

一　身上の事

一　身上の儀ハ

一　[illegible]の事

一 [illegible] 女[illegible]
[illegible]

一 町人[illegible]法[illegible]人[illegible]
[illegible]

一 [illegible]
[illegible]

一 [illegible]
[illegible]

一 [illegible]
[illegible]

一 [illegible]
[illegible]

一 [illegible]
[illegible]

一 [illegible]
[illegible]

一　[illegible]の事別紙[illegible]

一　[illegible]のこと[illegible]前[illegible]お[illegible]

[illegible]岡[illegible]事

一　[illegible]人見[illegible]

一　[illegible]事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛永三年十月　日

御黒印[illegible]

定

一　女中[illegible]親の[illegible]

[illegible]

一　[illegible]の[illegible]女中[illegible]

又[illegible]女中[illegible]

一　日帰りの女中[illegible]

一たゝ大武の〳〵義御書ひ天の時
さ[illegible]事
一親子兄弟の間の事如[illegible]及ん時ハ
[illegible]事

[illegible]自ら相守〳〵可[illegible]仍掟如[illegible]

寛永三年十月[illegible]日

[illegible]
主計頭
大炊頭
周防守

新院御所に
[illegible]義[illegible]
一[illegible]
公用 [illegible]
御[illegible]
一御[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 御殿日番御茶屋[illegible]
新院御番 奏者[illegible]
一 御年寄衆 仙洞
御中[illegible] 女院御所[illegible]
一 御[illegible]人御年[illegible]切[illegible]用[illegible]
附御年寄附院[illegible]

[illegible]

[illegible]年[illegible]月十日 御黒印

[illegible]

一 諸中臣人[illegible]
銀[illegible]
新院御 奏者[illegible]
附 御所[illegible]
大[illegible]

一 官[illegible]進[illegible]年[illegible]
為[illegible]

一 警法の軍法に成候ては女院法にて可罪法事

一 御門番兵の方々表に出候時は門内に立不申

御番之者人数之儀は各別に候事

一 火用事出る方々

一 恩与等御門番人に成候人は勝手おろし置

申候一年に両度宛御番子御与力

ゟ被仰付事也人数壱人宛

一 御殿之間々表方之間之口番所ゟ殿ゟ

直に御番所迄御用之時申出る事

一 場方之内の番所に男女迄一切入申間敷事

一 奥御殿掃除に成候て御番所迄男の業にて

有付時ゟ行申候事

一 御膳ゟ成出 惣中一同に罪法事

一 多賀方に成候ては女院法にて可有之

ゟ成候ては女院ゟ成候ゟ可有之

ゟ成候ては女院ゟ成候ゟ可有之

[illegible]

[illegible]

[illegible]

有申沙汰者也

慶長十六年六月十六日　御判

廣橋大納言殿

就論達之儀　勅書并代官沈判以證拠令
申付下知畏入候　因茲已明白之沈
文取次為申合教光卿法令之親疎
者之沙汰之儀所存也

慶長十三年十月十日　秀吉公　御判

宗長卿

論達之儀　勅書并代官沈判就令
之沙汰之旨慶長十三年十月十日　秀吉公
内々有如之親疎　秀吉公　御判

宗長卿

寛永十八年六月十日

宗長卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛文三年十月晦日　御判

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]